

不登校ひきこもり実態調査 と 相談会の開催

市民公益活動促進補助金 実績報告

NPO法人南大阪サポートネット

この事業の目的と実施事業



不登校の増加と ひきこもり状態への移行

- ・義務教育終了後は社会に所属が無くなる
実態が把握されず、公的支援も途切れる
- ・支援体制が未整備
- ・若者のひきこもりの長期化



不登校・ひきこもりの子どもを持つ家族へのアンケート調査
同じ体験を持つピア相談員による相談機会を作る



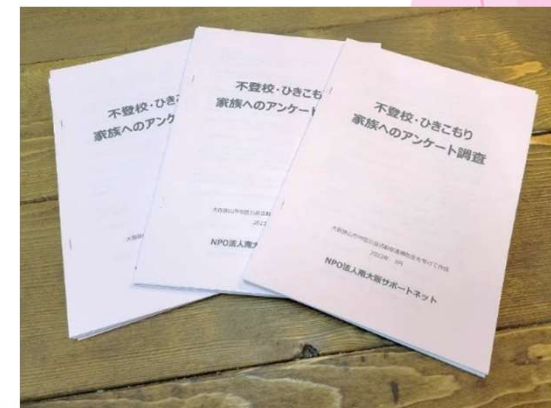
実態を明らかにする

実態を明らかにするためのアンケート調査

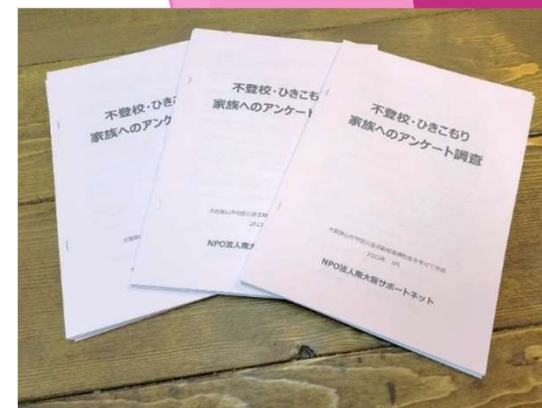
- ▶ 9月5日 アンケート会議
- ▶ 10月21日 アンケート打合せ
- ▶ 11月20日 アンケート配布開始
- ▶ 12月2日 アンケート配布開始
- ▶ 2月18日 アンケート回収・集計
- ▶ 2月20日 アンケート回収・集計
- ▶ 3月18日 まとめ・冊子作製
- ▶ 3月19日 まとめ・冊子作製
- ▶ 3月20日 まとめ・冊子作製

			2021年度		2020年度		計
いま困っていること、不安や悩みから求めている支援はどれですか？ 当てはまるものすべてに○をしてください				チェック した割合 (%)		チェック した割合 (%)	チェック した割合 (%)
C 1	1	親自身のしんどさを共感して聴いてもらえるところ	12	39	22	63	51
C 2	2	不安や問題を話したり相談したりできる安心の場	19	61	31	89	75
C 3	3	情報がもらえるところ	17	55	32	91	73
C 4	4	同じ体験をした人の話を聴きたい	9	29	22	63	46
C 5	5	元当事者の人の体験談を聴きたい	14	45	23	66	56
C 6	6	カウンセリング	12	39	18	51	45
C 7	7	自分自身の居場所（職場や趣味の場）	6	19	10	29	24
C 8	8	講座（親亡き後の人生設計、ひきこもり用ファイナンシャルプラン）	4	13	14	40	27
C 9	9	講座（ストレスマネジメント）	6	19	14	40	30
C 10	10	講座（子どもへのかかわり方や接し方）	7	23	20	57	40
C 11	11	講座（「当たり前」という価値観を見直す）	7	23	14	40	32
C 12	12	講座（子どものことと親のことを分けて考える方法）	1	3	16	46	25
C 13	13	子どもの状態に合わせた支援を考えてくれる人が欲しい	25	80	27	77	79
C 14	14	利用可能な公的制度や窓口の一覧が欲しかった	11	35	15	43	39
C 15	15	公的制度、機関、民間の支援や家族会などに繋いでくれるコーディネーターが欲しい	11	35	19	54	45
C 16	16	専門家も含めたチームでの支援があると嬉しい	14	45	20	57	51
C 17	17	障害者手帳を取得していなくても活用できる支援が欲しい	5	16	21	60	38
C 18	18	家族の会	3	10	12	34	22
C 19	19	子どもが出かけていける場所が欲しい	18	58	19	54	56
C 20	20	就労支援	5	16	12	34	25
C 21	21	就職相談	5	16	10	29	23
C 22	22	家から出られない子どもに関わるために訪問してもらいたい	4	13	8	23	18
C 23	23	ひきこもり外来	2	6	5	14	10
C 24	24	ひきこもりに関して理解してくれる習い事、塾、家庭教師の存在	11	35	11	31	33
C 25	25	子どもと関わってくれる信頼関係が作れる第三者の存在	19	61	28	80	71
C 26	26	ハードルの低い職場体験の機会	11	35	21	60	48
C 27	27	子どもの日常生活の自立、社会生活の自立の練習が出来るところ	11	35	20	57	46
C 28	28	日常生活のリズムを作る宿泊型の生活の場	1	3	6	17	10
C 29	29	就労以外の社会的スキルを身に付けられる居場所	7	23	17	49	36
C 30	30	安心して送り出せる子どもが様々な体験を積める場所	10	32	22	63	48
C 31	31	安心感を持って就労できる職場	10	32	18	51	42
C 32	32	発達課題などのグレーゾーンにある人への支援	13	42	13	37	40
C 33	33	子どもに提案できそうな多種多様な情報が欲しい	16	52	23	66	59
C 34	34	多様な職業体験出来る機会	10	32	18	51	42

アンケート 集計冊子



アンケート集計冊子



A	14	繋がり続けることの出来る場所・親の会 や支援団体の情報が欲しかった	11	11	5	0	3	1	71	17	7	0	2	2	7	92	82
B	1	どのように探せばいいのかわから なかった	9	15	2	2	3	0	77	11	14	3	5	1	1	76	77
B	14	子どもを中心に置き制度の縦割り や公・民の壁を超えて支援を提案 してくれる人が欲しい	19	10	0	0	1	1	94	29	3	2	0	0	1	94	94
C	2	不安や問題を話したり相談したりできる安心の場	19	61						31	89					75	
C	3	情報がもらえるところ	17	55						32	91					73	
D	10	不登校・ひきこもりは専門家であっても座学の知識 だけでは理解できないと思う	4	26	1	0	30			3	30	1	1	33		63	

ピア相談員による相談機会を作る

①ピアサポートグループ 延べ50人参加

同じ体験を持つピアサポーターによる
グループ相互相談と情報提供、交流の時間
テーマ終了後希望者には個別相談

- ・6月19日 不登校当事者体験談
- ・9月26日 学齢期の子どもさんの不登校を中心に
- ・10月10日 ひきこもり当事者家族の体験談
- ・11月6日 学齢期の子どもさんの不登校を中心に
- ・1月16日 ひきこもり当事者家族の体験談
- ・3月27日 当事者支援を続けている方も交えて

年代別、テーマ別に6回開催

一番身近な支援者である家族は、支援が必要な当事者である

ピアサポーターは家族への敬意を持ち、実情を理解している

- ・不安、心配、悩みを、共感を持って傾聴する
- ・情報と選択肢の提供



安心できるつながり = 孤立（再孤立）の防止

ピア相談員による相談機会を作る

②研修会 延べ8人参加

同じ体験を持つピアサポーターとしての学び

- ・8月21日 オンライン研修参加
講師 小川さくらさん(フラワーズ親の会主宰)
- ・11月28日 グループカウンセリング 講演会参加
講師 広木克行さん(神戸大学名誉教授)

ピア相談員による相談機会を作る

③公開研修会 10人参加

対象 当事者・当事者家族・支援者

- ・9月12日 グループカウンセリング
講師 宮田 友基さん
(帝塚山大学大学院教授)

成 果

数値と記述から

家族の実情や思いを、リアルに可視化できた

安心できるつながり 情報と選択肢の提供

(= 孤立の防止)

近隣グループや不登校コミュニティとの連携

これから



当事者の声を反映した支援へ

○「不登校やひきこもりの支援を考える(仮称)」集いの開催

対象：当事者・当事者家族・支援者・関係機関担当者

○ピア相談員による相談機会の継続

- ・グループ相談⇒ピアサポートグループ
- ・個別面談⇒『不登校やひきこもり相談窓口』の開設準備

○ピアサポーターの育成

- ・「おたがいさま」の相互支援

質問

実態調査と相談会を実施してみて、想定外の反応や気づきはありましたか？
また今後の展開についても教えてください

今後、アンケート結果をどのように活用する
予定ですか？